

「自分の自信になる行動を五つ考えて。その中から三つ実行するのが、今週のチャレンジです」。東京・世田谷区の塾「ITTO個別指導学院深沢校」。矢部裕貴教室長(30)が、高校受験を控えた中学生に語りかける。行われていたのは教科ではなく、「7つの習慣J」と称する「生き方」の授業だ。

自尊心、目標・計画の立て方から、人に信頼される態度まで、エピソードを交えて実践的に学ぶ。小学生から高校生まで各クラス週1回。およそ塾らしくない内容だが、塾生の6割以上が受講する。「勉強以上に、親や友人との人間関係で悩むのが思春期。解決できる自信がつけば成績も上がる」と、この授業の専任でもある矢部さんは語る。



No.1542

教育ルネサンス やる気のコツ 19

「7つの習慣」で成長

授業の底本は、アメリカの教育者ステイブン・R・コヴィー氏の著書『7つの習慣』

「成功には原則があった!」主体性や誠実さ、協調性といった人格の重要性を説き、多



「先週のチャレンジはどうだった?」。授業の学びを行動に移せたか、毎回振り返る(9月9日、東京・世田谷区のITTO個別指導学院深沢校で)

コヴィー氏が提唱する「7つの習慣」①主体的に行動する(気分や行動は自分で決める)②目的を持って始める(使命と目標を明確にする)③一番大切なことを優先する(重要なことから時間と力を集中する)④win-winを考える(他者を尊敬し、自分の意見も伝える)⑤理解してから理解される(人の話を誠実に聞く)⑥相乗効果を発揮する(創造性が高まる協力関係を築く)⑦自分を磨く(肉体的、精神的な健康管理も重要)

くの企業が研修に取り入れるビジネス書の古典的存在だ。

海外の教育実践などをヒントに、2004年にFCエデュケーション社(東京)が子ども向けの教育プログラムの展開を開始。「子どもが積極的にになった」など評判が高まり、「7つの習慣J」を教える塾は全国で214校に。私立中・高校にも広がり、導入校は全国で87校にのぼる。

大阪市北区にある中高一貫の私立女子校、金蘭会中学校では、4年前、本の愛読者だった田中好浩教諭(51)が「学校改革の要に」と藤林富郎校長(57)に提案した。前例のない取り組みに異論もあったが、議論の末、2008年から中1に導入。「1期生」が3年になった年から、部活動で全国大会優勝や入賞が相次ぎ、精神面の成長ぶりに先生たちも驚いた。

現在は校長を含め教諭12人が講師の資格を取り、中2まで2年間の必修授業に。毎週、授業内容を保護者向けの通信で伝えるほか、保護者会も開いて家庭との連携をねらう。今年、同校が行った調査では、保護者の約3分の2が「子どもの変化を実感」と評価、本を手取る保護者も増えた。

中2の津森望美さん(14)は、「自分の反応や感情は選んでできる、という考え方を学び、確実に新しい自分が生まれ」と語る。人間関係や勉強で悩んだ時、折に触れて授業を思い出すという。遠回りのようだが、小さな変化の積み重ねが大きな成長を生む。(片山圭子、写真も)

大阪市の私立女子校、金蘭会中学校では、4年前、本の愛読者だった田中好浩教諭(51)が「学校改革の要に」と藤林富郎校長(57)に提案した。前例のない取り組みに異論もあったが、議論の末、2008年から中1に導入。「1期生」が3年になった年から、部活動で全国大会優勝や入賞が相次ぎ、精神面の成長ぶりに先生たちも驚いた。